

国立大学等の 特色ある施設

2014

大学機能を活性化する教育研究空間づくり編

C4. 広域拠点型教育大学としてランドマークとなる施設

愛知教育大学 教育未来館



北側外観

大学の新しいランドマークとなる総合研究棟。教育系大学の改革を推進し、多様な利用形態に対応可能なスペースも整備。

■教育系大学の改革を加速

不足している大学院生用スペースの確保、大学改革推進のための機能・スペースの集約化、共同利用スペースの弾力的な運用等を図るための施設である。

教育系大学におけるアクティブラーニングの推進が可能となり、高度情報化社会への即応等による優れた教育研究成果の創出につながる。また、静岡大学との共同大学院、国立大学改革強化推進事業(HATOプロジェクト：北海道教育大学(H)、愛知教育大学(A)、東京学芸大学(T)、大阪教育大学(O)が参加する教員養成の高度化支援システムを構築する事業)、大学間連携共同教育推進事業(愛知県内教員養成高度化支援システムの構築)等の大学改革の一層の推進も期待される。なお、1階にはキャリア支援課等の学生支援スペースも設置されている。

■キャンパス計画の策定・推進体制の整備

○新築に係る原則の策定

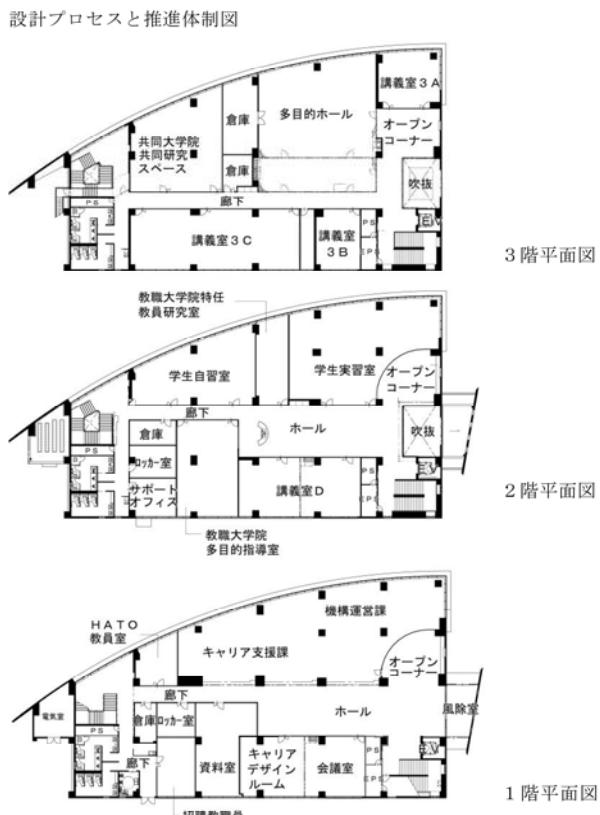
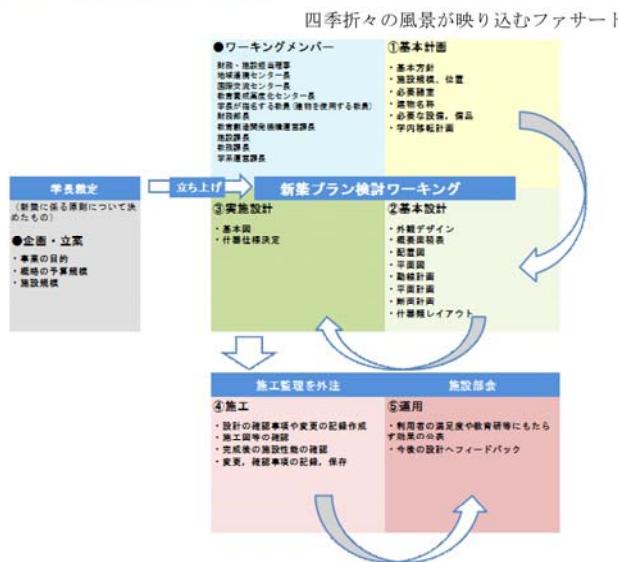
企画・立案に当たり経営トップの学長と協議の上「新築に係る原則について」を策定し学長裁定とした。

○新築プラン検討ワーキング

学長裁定の「新築に係る原則について」を受けて、財務・施設担当理事を座長とする「新築プラン検討ワーキング」を立ち上げ、計10名のメンバー(地域連携センター長、国際交流センター長、教育養成高度化センター長、建物を使用する教員、財務部長、教育創造開発機構運営課長、施設課長、教務課長、学系運営課長)により6度の会議を行った。ワーキングで決議されたものに関しては、①基本計画では「基本方針」「施設規模、位置」「必要諸室」「施設規模」を明確化、「必要な設備・備品」の精査、「学内移転計画」を具体的に調整し、②基本設計では「外観デザイン」「概要面積表」「配置図」「平面図」を決定、「動線計画」「平面計画」「断面計画」「什器(じゅうき)レイアウト」のすり合わせ、③実施設計では「什器(じゅうき)の仕様」や「基本図面」を決定し、精力的に事業を推し進めた。

○建物名称・愛称の公募

新棟に対してより愛着を持ってもらい、活発な利用を促す目的で、建物名称及び愛称の学内公募を行った。ワーキングメン



バーにて一次選考を行い上位5位までを選定し、役員会にて名称は「教育未来館」、愛称は「ウイング愛教」が決定した。

■能動的学習・機動的可変性を有した空間の創出

○Hall

2階中央に配置したホールには、アクティブラーニングやコミュニケーションスペースの場として、ホワイトボードの壁やカウンターを整備した。また、2階には自習室や講義室、研究室等を配置しており、中央に配置したホールは各室を有機的に結びつける機能を有している。

○Open Corner

各フロアには、オープンコーナーを配置し、ホールからフリーにアクセスできる設計とした。このスペースは、デジタルサイネージにより海外情報を様々な言語で発信し、国際教養の理解を深める場であるとともに、大学院生を始め教職員やプロジェクト研究者、留学生、海外招聘（しょうへい）研究者等、多種多様な大学関係者が交流できる場である。

○Lecture Room

講義室と廊下を隔てる壁は、ガラスパーテーションを採用することで開放感を作りだし、「学習活動の見える化」を推進した。また、多様化する授業のかたちに対応するために可動間仕切りを設置し、前方には、黒板及びスクリーンプロジェクターを、後方には、ホワイトボードを設置した。

○Multipurpose Hall

3階に配置した多目的ホールは、テレビ会議システムやプロジェクター、大型スクリーン等電子機器が配備され、セミナーのみならず、留学生のガイダンス等の各種イベントに対応したスペースを確保した。

■気流制御による快適性能の向上

○Air Conditioner

開放的な空間を演出するため、1階フロアでは、ホールと事務スペースを隔てることをしなかったため、室温制御は、上部からの空調と下部からの空調吹出ファンにより温度ムラを無くし、ホールとの境界に配置されたサーチュレーターはエアカーテンの役割を果たすよう設計した。

○Odor Control

全てのトイレベース内に換気用ダクトを設け、発生した臭気を人の鼻を通さず外へ排出するよう下部吸い込みを採用した。

■自然と調和したデザイン

○Exterior Design

建物北側の曲面形状のガラスウォールに映り込む四季折々の青空、夕焼け、樹木とそこから透けて見える内部活動の様子がファサードデザインとなる。

○Glass Wall

北側に設けた全面ガラスウォールにより安定した光量を確保できる。また、立地条件を活かし街を望むパノラマ風景が見渡せ、穏やかな学習環境を確保した。

■自然の温度差を利用した換気システム

○Window Flow

吹抜ホールにおいて、垂直方向の空気の通り道をつくり、上階・下階の温度差により上昇気流を発生させる。発生した気流にのって、貯まった熱気は、開閉制御付きのトップライトから屋外へ排出され、その誘引効果により下階から新鮮空気を取り込むことが出来る。

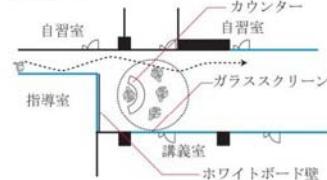
○Air Duct

夏は冷たく、冬は暖かい地熱を利用した換気システムであり、中間期の室内環境の向上と空調負荷の低減を図った。



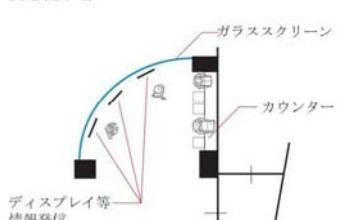
2階Hall

学生・教員のコミュニケーションアクティブラーニングの場。各所にホワイトボードやカウンターを配置し能動的な学習を誘発する



2階Open Corner

学科・年齢・性別などの垣根を越えた交流を促す場



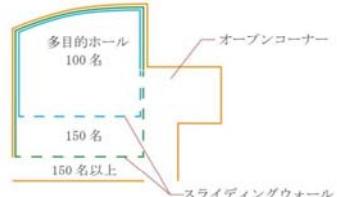
2階Lecture Room

ガラスパーテーションによる開放的で見通しの良い講義室。学習活動の「見える化」を推進



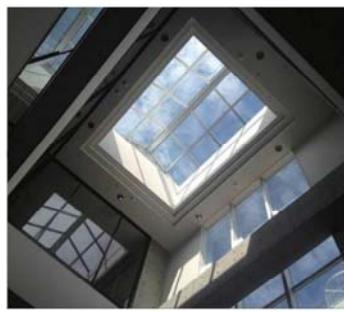
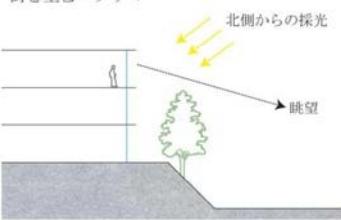
3階Multipurpose Hall

部屋の壁二面をスライディングウォールにすることにより多様な用途に対応したスペースとした



3階多目的ホールからの眺望

北面に設けた全面ガラスウォールによる安定した光量の確保。立地条件を活かし街を望むパノラマ



吹き抜けホール

外部から吹抜上部へ抜ける自然な空気の流れを活かした自然換気システムの導入

